

I

■出題のねらい

数学 I, II, A, B の内容から, 式の計算, 円, 対数, ベクトルの項目を選んで基本的な知識と計算力を問いました。

■採点講評

- (1) 概ねよくできていました。
- (2) 半径の値が負である解答がいくつか見受けられました。
- (3) 真数条件を考慮していない解答がいくつか見受けられました。
- (4) 概ねよくできていました。

II

■出題のねらい

三角関数の合成, 増減などの基本的な事項について問いました。

■採点講評

- (1) 合成はよくできていました。方程式も概ねできていました。
- (2), (3) 共によくできていました。(1)の空所「ア」が解答できれば, 容易な問題です。
- (4) この問題で間違える人がいました。

この関数は x の範囲が 1 周期分あるので, 容易に解答を導けるはずです。ケアレスミスをしないように, 丁寧に計算しましょう。

III

■出題のねらい

微積分学の基本定理と変数変換を用いた積分の計算に関する基本的な理解を問いました。

■採点講評

- (1) 概ねよくできていました。
- (2) 定積分して $f(x)$, $g(x)$ を求めた後に、微分をして $f'(x)$, $g'(x)$ を求める解答が多く見受けられました。間違いではありませんが、微積分学の基本定理を理解していれば、とても単純な問題でした。
- (3) $a^2 = 3$ から $a = 3$ とする誤答がいくつか散見されました。
- (4) $dt = \frac{1}{\cos^2 \theta} d\theta$ とする変換をしないまま計算している解答が多かったです。

IV

■出題のねらい

指数関数、対数および微積分に関する基礎的な知識と計算力を問いました。

■採点講評

全体的によくできていました。

- (1) 正答のうち、 $\log 3$ の値が出てこない解答がありました。
- (2) よくできていました。
- (3) よくできていましたが、符号ミスが少しありました。
- (4) (1)の値と(3)の増減から $f(x)$ の符号がわかりますが、これを用いて面積を積分で表すときに符号を間違えた解答がありました。計算ミスもあり、(1)～(4)の中では、最もできていませんでした。

V

■出題のねらい

等差数列の和の公式と条件を満たす要素の個数に関する基本的な知識を問いました。

■採点講評

全体的に条件を満たす数列の項数は求められているのに、その和は求められていない解答が多かったです。項数に関しては、空所「ウ」、**「エ」**はほとんどの人が正答でした。空所「ア」は勘違いした解答が多少みられ、空所「カ」のできが最もよくありませんでした。数列の和に関しては、空所「オ」はほとんどの人が正答で、空所「イ」、**「キ」**のできがよくありませんでした。つまり、等差数列の和の公式を自在に使いこなせず、空所「オ」は7つの数を足し算した人が多かったと思われます。

VI

■出題のねらい

放射線、直線、定積分の基本的な知識を問いました。

■採点講評

この関数の2次項の係数が負であることに気づいていない解答が多数ありました。つまり、この関数のグラフは上に凸になっています。また、 a は0と1の間の定数であるにもかかわらず、 a の値を求めている解答がみられました。よく問題文を読みましょう。(1)では $x^2=a^2$ となりますが、この解を $\pm\sqrt{a}$ や $\pm a^2$ としている人がいました。単純なことも慌てないで行いましょう。この問題の正答率は高かったです。(2)では積分の値と面積が一致しないものが多数ありました。それらの多くは符号が反転していました。(2)を正答すると(3)は容易に導くことができます。

I

■出題のねらい

ばねに関する3つの小問を通じて、静的問題から動的問題に至る力学の基本事項を問いました。動的問題として(1)等加速度運動、静的問題として(2)力の分解とつりあい、(3)力とモーメントのつりあいに関して理解度と計算力を問いました。

■採点講評

(1)の問1はエネルギー保存の法則、問2～4はあらい水平面上の等加速度運動に関する基本的な問題で、よくできていました。問5は摩擦力によって物体が静止するまでの移動距離に関する問題で、教科書や問題集でもよく出題されますが、不正答の受験者が比較的多かったです。(2)はばねの弾性力と物体の重力に関する問題で、水平および垂直方向のつりあい式からばねの弾性力を求める問7やフックの法則を用いてばねの伸びを考える問8は比較的良好にできていました。しかし、力を図示する問6の正答率は予想に反して低かったです。特に、力の大きさを矢印の長さとして正しく図示できていない解答が多くみられました。(3)は直列と並列につないだばねに関する問題で、力とモーメントのつりあい式中にある空所「ア」、「イ」の正答率は比較的高かったです。問9と空所「ウ」では、計算力を問いました。問9では、力とモーメントのつりあい式からそれぞれのばねの伸びを求め、それらが等しいとする条件式から解答が導けますが、正答率は低かったです。また、空所「ウ」では、ばねの弾性力から伸びを求め、直列と並列につないだ場合の物体の変位が比較しやすいように数式を変形する問題でしたが、正答率は最も低かったです。

日常の学習において、数式を暗記するだけの学習ではなく、数式やグラフが意味することをよく考え、数式を正確に処理できる能力を身に付けるように心掛けてください。

II

■出題のねらい

均一でない磁場中を運動するコイルを通じて、誘導起電力、コイルが磁場から受ける力、さらには、仕事とエネルギーの関係を問いました。

■採点講評

問1～4までは全体的によくできていました。問1、2では直線電流がつくる磁場の形状と向きをイメージしつつ、磁束密度の大きさを式で表すことができるかを問いました。問3は、誘導起電力が外部から与えられた磁束の変化を打ち消す向きに生じるというレンツの法則を理解しているかを問いました。誘導起電力によって生じた電流と直線電流がつくる磁場との相互作用によってコイルの辺WXおよび辺YZに力が生じますが、その向きを立体的に理解する必要があります。

問5～7は正答率が低かったです。最も大事な点は、磁束密度の大きさが直線電流から遠ざかるほど小さくなること、上下方向には大きさが変化しないことの2点です。問5は、コイルが全体として磁場から受ける力($\vec{F}$)の向きと大きさを問います。まず、辺XYおよび辺ZWにはフレミングの左手の法則により、それぞれ上向きおよび下向きに力が生じることがわかります。しかし、上下方向に磁束密度は変化しませんので、これらの力は打ち消しあって、コイルは全体として上下方向の力を受けません。一方、辺WXおよび辺YZにはすでに問4で解答したようにそれぞれ右向きおよび左向きの力が働き、かつ辺WXの位置における磁束密度の方が大きいので、 $\vec{F}$ は右向きとなります。また、その大きさは、 $B_1 > B_2$ であることに注意して、 $i(B_1 - B_2)l$ としなければなりません。問6は誘導起電力について問います。辺XYと辺ZWには誘導起電力が生じません。辺WXと辺YZに生じる誘導起電力は向きが逆なので、コイル全体に生じる誘導起電力(=誘導起電力の総和)はそれらの大きさの差となり、 $v(B_1 - B_2)l/R$ と表されます。問6の空所「ウ」を問5の式に代入することにより、コイル全体として磁場から受ける力が求められ、問7の正答となります。なお、問5～7で、記号 B_1 、 B_2 を使わず、直線電流からの距離で磁束密度を表した場合も正答としました。

問8の空所「エ」はよくできていましたが、空所「オ」は誤答が多かったです。コイルが磁場から力を受けながら一定速度で移動していることは、コイルを移動させる外力(大きさ F_0 とする)が存在することを意味します。この外力は、コイルが等速運動をしていることから、磁場から受ける力 $\vec{F}$ とつり合っています。つまり、 F_0 を求めれば、 $\vec{F}$ の大きさがわかります。そして、外力のなした仕事はすべて誘導電流によるジュール熱に変換されます。そこで、 $Ri^2 = F_0 v$ が成り立ち、 $\vec{F}$ の大きさが求められます。

III

■出題のねらい

半円プリズムと弦の振動を通して、波動の基本的事項について問いました。また、圧力や仕事の計算などの熱力学の基本知識について問いました。

■採点講評

基本問題が多かったので、全体の正答率は高く、約60%でした。

(1) は半円プリズムを用いた屈折率の式についての問題です。問1の屈折率の定義式がきちんと書けていない解答が多くみられました。問2は応用問題ですが、屈折率の定義と三角比を用いると、簡単に解くことができます。これも正答率は高くありませんでした。

(2) は弦の振動を題材にした問題で、問3、4はよくできていました。波長を0.8mとしたため、速さを40m/sとした誤答もみられました。まず、波長とはどの部分の長さを指しているのか理解しておきましょう。問5の次元解析はよくできていて、正答率は約80%でした。問6は文章を読んで論理的に考える力をみました。速さ、周波数、波長のそれぞれがどのように変化したかを、順を追って理解することが重要です。

(3) は熱力学の基本的な問題です。問7、8は必ずできるようにしておきましょう。圧力の定義式、気体の状態方程式は熱力学の基本です。問8は問題文中の内部エネルギーの説明に惑わされたのか、 $\frac{2}{3}$ という係数がついた誤答が多くみられました。問9、10は定圧変化の問題であることを理解することが重要です。問9の体積変化は $2V$ ですが、 $3p_A V$ という単純に状態Bの体積を代入しただけの誤答もみられました。問10はこの大問の中で最も正答率が低かったです。熱力学第1法則を用いた計算は、教科書の基本問題にも出てくるので、必ずできるようにしておいてください。ただし、この問10については、定圧モル比熱を用いた熱量の式からも計算することができます。

物理の現象を理解するうえで、基本知識を把握しておくことは重要です。教科書でこれらの知識をしっかりと理解しておいてください。数値計算問題もできるようにしましょう。

I

■出題のねらい

酸・塩基, pH, 中和滴定に関する基本的な知識, および計算能力を問いました。

■採点講評

〔1〕は、受験者が必ず理解しておくべき酸・塩基, pHに関する基本的な知識を問う問題です。(1)について、「電離定数」,「溶解度積」,「平衡定数」と解答しているものが多く、正答率が非常に低かったです。また、「イオン積」のように漢字の間違えが目立ちました。日頃から、自分の手で正確に紙に書くことで、基本的かつ重要な単語を身に付ける努力が必要です。(3)については、正答率は高かったものの、残念ながら全問正解の解答は少なかったです。純水のpHについて正答できなかった受験者は、pHの勉強を基礎から復習する必要があると思います。純水では、水酸化水素イオンと水素イオン濃度がともに 10^{-7}mol/L となり、pHは7となります。純水のpHは覚えていてもよいぐらいだと思います。また、pHの数値を解答するよう求めています。水素イオン濃度と答えた解答も散見されました。問題文を落ち着いてよく読む必要があります。また、有効数字2桁で答えていない解答が目立ちました。有効数字の理解が望まれます。

〔2〕中和滴定に関する問題は、過去にもよく出題されており、受験者が必ず理解しておくべき項目です。受験勉強において多くの演習問題に取り組むことで、理解を深め、確実に計算能力を身に付けることが望まれます。(5)について、ボールピュベット、ホールピュレット、ピットなど、正しく答えていない解答が目立ちました。中和滴定で使用する器具は、化学実験において基本的かつ重要ですので、今後、化学について学ぶことを考えている受験者は、正しく解答することが求められます。ガラス器具の名称、機能、形状および使い方を覚えるようにしてください。(6)の指示薬の色の変化の問題は比較的できていました。間違えの多くは、赤から無色になる④を選んでいました。フェノールフタレインは酸性から中性の領域で無色、アルカリ性において赤色になります。塩酸にフェノールフタレインを加え、水酸化ナトリウムで中和するのですから、無色から赤色に変色するはずで、(7), (8)の計算問題は期待するほどできていませんでした。溶液の体積と濃度の積は物質質量となります。この関係さえおさえれば、滴定の問題は解けます。また、質量を分子量で割ると物質質量が得られます。この関係式は化学の基本です。必ずマスターすべきです。この二つの関係が正しく理解できていれば、(7), (8)の問題は解けるはずで、

「0 (ゼロ)」を、下から右回りで書いている解答が目立ちました。化学以前の問題だと思います。丁寧に採点者が読解可能な文字を書き、解答することが望まれます。

II

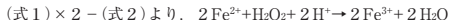
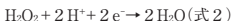
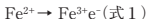
■出題のねらい

各種金属イオン (Ag^+ , Al^{3+} , Cu^{2+} , Fe^{2+} および Zn^{2+}) の定性分析に関する知識を問いました。

■採点講評

基本的な問題でしたが、正答率は約50%でした。

- (1) 教科書に載っている金属イオンの性質をよく理解し、基本的な化合物や錯体の名称および化学式を正確に覚えておいてください。
- (2) 両性水酸化物を形成する金属イオンはアルミニウムイオンと亜鉛イオンです。それらの水酸化物は、水酸化アルミニウムと水酸化亜鉛です。
- (3) 塩化銀に光が当たると、銀が遊離します。単体Agと化合物 Cl_2 が生成することがポイントです。この現象は感光といい、フィルム写真に使われる反応です。
- (4) 水酸化銅に過剰なアンモニアを加えると、水酸化銅が溶けて、テトラアンミン銅(II)イオンが形成されます。係数も考慮した化学反応式が書けるようにしておいてください。
- (5) よくできていました。各種金属イオンと硫化水素が反応すると、 Ag_2S (黒色)、 CuS (黒色)、 FeS (黒色) そして ZnS (白色) の沈殿が生じます。
- (6) Fe^{2+} は Fe^{3+} へと酸化され、一方、 H_2O_2 は還元されることで H_2O が生成します。それぞれの半反応式から、最終的にイオン反応式が得られます。



III

■出題のねらい

高分子化合物を題材として、有機化学・高分子化学の基本的な知識について問いました。

■採点講評

全体的に正答率はあまり高くありませんでした。

(1) は、高分子に関する化合物の名称を問いました。Aではジクロロエチレン、Bでは塩酸、Cでは6-ナイロンという解答が散見されました。

(2) は、重合の名称を問う問題でしたが、予想に反して正答率は低かったです。

(3) は、ポリエチレンテレフタレート(PET)の原料となる二つの化合物について、名称および構造を問いました。PETは最も基本的な高分子化合物の一つですので、どの化合物から合成するのかについても理解しておいてください。また、DとEを逆に書いている解答が散見されました。文章の最後に、Dがどの化合物から作られるのかについて記述されていたので、よく読めばこのような間違いは回避できるかと思います。

(4) は、基本的な有機化合物の構造を問う問題ですが、比較的よくできていました。

(5) は、6,6-ナイロンの繰り返し単位の構造について問いましたが、正答率はあまり高くありませんでした。またアミド結合であるとわかっているにもかかわらず、構造を逆向きに答えている解答がかなりみられました。

(6) は、高分子化学に関連した基本的な計算能力を問う問題ですが、正答率は低かったです。ポリエチレンテレフタレートは代表的なポリエステルですので、原料と繰り返し単位を理解しておいてください。

この問題は、有機化学から高分子化学と広範囲に出題していますが、教科書の基本的な語句・化合物を理解していれば解答できる問題です。幅広く理解しながら学習することが大切です。

生物の入試問題は教科書を基本としており、概ね教科書で入試対策ができることを前提にしています。また、教科書内で紹介されている発展的内容も考慮しつつ出題しています。

A 2 日程の問題構成は「動物細胞の分化」、「生物学の研究方法」、「細胞における物質輸送」、「細胞分裂の過程」、「メンデル遺伝」、「染色体の働き」などから出題しました。

I

■出題のねらい

前半はノーベル賞を受賞した山中伸弥教授の研究を踏まえ、動物細胞の分化に関する問題をその研究の背景、歴史から出題しました。山中教授の iPS 細胞研究につながる細胞分化研究の系譜を辿るような出題です。共同受賞者のガードン教授の研究から明らかになったことをまとめるような内容にしました。動物細胞分化の本質部分の理解を試すものです。後半は生物を用いた研究の方法論に関する出題です。ほぼすべての教科書に掲載されている内容にもかかわらず、出題されることはまれな分野です。しかしながら、近年研究課題への取り組みが積極的に授業に取り込まれることが多くなっている現状を考えると、研究の方法を理解しておくことは極めて重要となります。

■採点講評

正答率は57%でした。前半は全体的によくできていました。しかし、科学史関係で利根川進やガードンの正答率が約50%だったのは残念です。生物を学習した受験者であれば知っているはずの名前です。A 1 日程の採点講評にも書いたように、日頃から生物に関するニュースに目配りして関連分野の知識を蓄積しておくことが大切です。生物を用いた研究の方法に関する問題は、あまり一般的ではありませんでしたがよくできていました。生物学に限らず科学研究の基本は同じですからこのような知識を持ってもらいたいものです。前半の単問で一番正答率が低かったのは「20」でした（正答率28%）。これは盲点を突いた出題で、実際にゾウリムシを顕微鏡観察した経験がない受験者にとっては難しかったかもしれません。しかし、生物学は本来実験・観察が重要な分野です。高校で行う実習時間を大切にしてください。進化に関する4つの説とその提唱者を結びつける問題（「15」～「18」）は自然選択説以外は正答率が50%以下でした。高校の生物学では基本ですから全問正答してほしい問題です。また、細胞内外の物質輸送に関する問題も2つ選ぶ内1つしか正答できていない受験者が多数いました。与えられた図から類推する力を養ってください。

Ⅱ

■出題のねらい

染色体に関する内容を中心とした問題です。(1)は細胞周期、(2)は遺伝子の連鎖と組換えを中心として、基本的知識と論理的な理解を問うための計算問題を出題しました。細胞周期の各段階でどのような変化があり、それは何を意味しているのか、「分裂各期とDNA量の変化を示した図」から読み取れるかをみています。また、遺伝に関する問題ではメンデル遺伝の基本を穴埋めで確認しています。さらに、連鎖や組換えの仕組みを理解しているか、計算問題を含めて出題しました。

■採点講評

正答率は59%でした。遺伝の問題としては類型問題ですが、できているところとできていないところが明瞭でした。生物を構成している細胞にはいくつか種類がありますが、それらの違いはどこにあるのかを知識として定着させることが重要です。原核細胞と真核細胞の共通点を問う問題ではその辺の弱点が出てしまい、正しく2つを選ぶことができた受験者は約30%でした(26, 27)。細胞周期の中でDNA量の変化を説明する問題も、できがよくありませんでした。これは減数分裂の仕組みをよく理解していなかったからだと思いますが、これも細胞生物学の基本ですので試験前に知識を定着させてください(34, 35)。正答率が19%というのは出題側としては残念な結果でした。遺伝に関する問題ではメンデルの法則関連の穴埋めはよくできていました。しかしながら、連鎖や組換えについて理解が曖昧な受験者がみられました。それは41, 42の正答率が50%未満であることから類推できます。それに関連して、46, 47のような表現型の分離比を求めるこの種の類型問題の正答率が約20~30%しかないのもそれを示しています。類型問題は同じような問題を何問も解くことによって身に付けることが大学受験の学習方法なのですが、この種の問題は遺伝の仕組み(ここでは組換えや連鎖)さえ理解できていれば自力で解くことが可能です。繰り返しますが、暗記ではなく仕組みの理解が重要です。

I

■出題のねらい

日常的な会話の内容を正確に理解する問題です。2 者のやりとりの流れを見失わないようにしながら、細かい情報を読み取ります。

■採点講評

日常的な会話には、様々な話題が入れ替わり出てきます。この問題では Daigo が勤務先を変更することになった経緯をしっかりと理解できるかどうかのポイントでした。[3]、[4] の正答率がよくありませんでしたので、苦戦した人も少なくなかったようです。特に英問英答の問題では、同じ内容も違った表現で言い換えられますから注意が必要です。

II

■出題のねらい

ツアー案内を題材にした問題です。広告のスタイルに注意しながら、提示されている情報の中から、必要な情報を正確に読み取ります。

■採点講評

ツアーの案内チラシが題材になっていますが、英文そのものは一般的なスタイルで文型もシンプルです。そのため、内容理解がしっかりできているかどうか重要なポイントとなりました。(3) の正答率が低かったのですが、この問題は選択肢も日本語ですし、一見解きやすい問題と思われがちです。しかし、どの選択肢もいかにもありそうな内容ですので、本文を丹念に読みこまなければ正答には辿りつけません。

III

■出題のねらい

与えられた英文情報から、必要な情報を正確に読み取れるかどうかを問う問題です。見学ツアーの案内等によくみられる日にちや年齢、人数に関連する表現や文法、図版が正確に読み取れ理解できるかどうかのポイントです。

■採点講評

全体的に正答率はよかったです。14の正答率がよくありませんでした。選択肢はどれもありそうな内容ばかりですから、本文をしっかりと読んで、深く理解できているかどうかのポイントとなりました。正答は③でしたが、④を選んだ人が多かったです。

IV

■出題のねらい

宇宙観測の最先端基地として南米チリの高地に設置されたアルマ望遠鏡に関する英文を読み、多量に提供されている数値情報を正確に辿りながら、英語の基本的な語彙・語法の理解に基づいた内容把握の問題です。天文学に関する語彙が多く使われているため、一見したところやや難解にみえますが、設問の指示文で提供されている日本語からヒントを得ることで、各設問が解答しやすくなります。

■採点講評

テーマが難しかったせいか、他の問題と比べて正答率は低かったです。中でもアルマ望遠鏡を構成する66基のパラボラアンテナについての19の正答率が低かったです。「望遠鏡」という語に惑わされないためには、本文の該当箇所を丹念に読むことが必要です。また、“equivalent”と置き換えることのできる語を選ぶ20の正答率もよくありませんでした。このタイプの問題は文脈から得られるヒントを活用することがポイントとなりますが、単語を覚えるときに同意語も一緒に覚えるようにすると効果的です。

V

■出題のねらい

設問が2つありますが、(1)は基本的な構文力と文法力を問い、(2)は英文全体の内容が把握できているかどうかを問う問題です。

■採点講評

[27]は不定詞の形容詞的用法、[28]は同等比較の基本的な構文の問題でしたが、この2つの正答率がよくありませんでした。単語は決して難しいものではありませんから、基本的な構文をもう一度確認しておきましょう。

I

出典『国際正義の論理』（押村高）講談社現代新書

現代の「経済的相互依存による平和」の原型である商業道徳と、それを平和に生かそうとしたカントの考え方について述べている部分です。

問 1 【漢字問題】（解答番号は 1 ～ 10）

正答と正答率を示しておきます。

- a 制裁（84 %）
- b 寄与（79 %）
- c 野獣（87 %）
- d 履行（27 %）
- e 射程（43 %）

問 2 【内容理解に関する問題】（解答番号は 11）

第一、二節をよく読んで、その内容に合致しない選択肢を捜せば正答です。正答は③、正答率は 75 % でした。

問 3 【指示語の内容を考える問題】（解答番号は 12・13）

「このような」の修飾する語（発想・効果）にも注意して、直前に記されている指示内容を具体的にすれば正答に導かれます。正答率は、B は 83 %、C は 65 % でした。

問 4 【空欄補充と文脈把握に関する問題】（解答番号は 14）

この段落と次の段落を読んでカントの「人間」という視点と、十八世紀の人々の「同胞・異国人」という視点の違いを読み取れば、空欄 I の「限定」の内容がわかります。正答は①、正答率は 22 % でした。

問 5 【空欄補充と内容理解に関する問題】（解答番号は 15 ～ 18）

空欄の前後の内容を把握し、文脈上適切な語を選ぶことが肝要です。四問の中では空欄 III が正答率 37 % とやや難しかったようです。「勢力均衡」の具体的内容は、次節にも記述があり、ヒントになります。

問 6 【空欄補充と文脈把握に関する問題】（解答番号は 19）

「生存競争」の語がヒントになります。

問 7 【成句の意味を問う問題】（解答番号は 20）

成句についても日頃から気をつけておきましょう。次の段落にもヒントがあります。

問8【副詞や接続詞の空欄補充問題】（解答番号は21・22）

空欄の前後の論理展開に注意しましょう。十八世紀の一般的な考え方にカントが批判的であることを読み取れば、空欄【甲】には逆接の接続詞が入ることがわかります。空欄【乙】は、前文が後文の目的になっていることを読み取れば解けます。

問9【内容理解に関する問題】（解答番号は23・24）

第三、四節を読んで、内容が把握できているかをみる問題です。正答は①・②です。③は「初めて認めた」、④は「E.U（欧州連合）を成功させた」、⑤は「意見も十分取り入れたうえで」が不正答の部分です。二つとも正答だった人は全体の34%でした。

II

出典『哲学する心』（梅原猛）講談社学術文庫

受験者には聞き慣れない用語もあり、また宗教にかかわることも書かれていたので、戸惑った受験者もいたのではないかと思います。しかし、丁寧に読めば、決して読み解けない文章ではありません。以下では、説明が必要と思われる設問のみ解説しておきます。

問1【漢字問題】（解答番号は25・34）

正答を示し、その後に、括弧内に正答率を記します。

- a 病弊（18%）
- b 教理（27%）
- c 精密（97%）
- d 歓楽（47%）
- e 推定（87%）

漢字は難しいものもあります。文脈を押さえて漢字を選ぶようにしましょう。

問3【空欄補充と文脈把握問題】（解答番号は38）

本文三段落目にある「素朴なマコトにみちている美的文化」というのがヒントです。正答率は10%でした。

問4【空欄補充と文脈把握問題】（解答番号は39）

空欄【乙】の前段落にある「宣長は儒仏の影響をぬきにして、日本文化を見ようとする」とあります。これがヒントです。正答率は50%でした。

問5【小見出しの選択と内容把握問題】（解答番号は40）

本節末に「源氏を仏教の影響なしに見ようとするのが、どんなに偏見であるかわかるであろう」とあることからわかるように、本節は源氏物語と仏教との関係について述べてます。正答は④です。

問6【傍線部の説明と内容把握問題】（解答番号は41）

傍線部Aを含む段落冒頭にある一文、傍線部Aの直前の文章を踏まえると正答は④です。
①は「諸外国のことだけでなく」②「現代の学者は新国学派と呼ばれており」③「神の道を疎かにし」⑤「現代の学者も踏襲している」という個所が本文にはありません。正答率は71%でした。

問7【傍線部の説明と内容把握問題】（解答番号は42）

傍線部Bの直前がヒントで、正答は②です。①「現代に繋がる国粋主義」③「国学の本質」以下、④「野蠻であることを見抜いた」⑤「江戸時代の人々は、文化がなく」が間違いです。正答率は82%でした。

問8【内容合致問題】（解答番号は43・44）

正答は③・⑦です。①「西欧の文化を偏った知識で」②「西洋のものを日本に取り入れようとしていた」④「日本美の手本を万葉集を中心とした和歌集に求めたことで」⑤「十八世紀頃から」⑥「当時の僧侶以上である」が本文にはありません。正答率は19%でした。